



## 「木戸」となぜいうようになったの

### 「きど」の語源

庭などの出入り口にある、屋根のない、簡単な開き戸を、木戸とよんでいます。この「きど」ということばが、どこからきたかについては、柵門（柵に設けられた門）からきたという説、垣戸（垣に設けられた戸）からきたという説など、いろいろあるようです。この「きど」を、いつごろから「木戸」と書くようになったのかは、わかりませんが、鎌倉時代の中ごろにつくられた『平家物語』には、すでに「木戸」という字が、使われていました。

### 江戸時代の木戸

江戸時代になると、江戸や大坂の町では、犯罪者がにげるのを防ぎとめたり、暴動が起きたときに、ほかの町に広まらないようにするため、町と町の境に、木の門が設けられ、これを木戸とよんでいました。この木戸が、大通りに設けられたものは、大木戸とよばれました。また、芝居小屋・見せ物小屋などの入り口は、木製の戸だったので、これも木戸とよび、入場料を、木戸銭とよんでいました。（監修・田代 脩）

